



# 「児童虐待」をいさぐち考える

## こころをつなぐ まちづくり

人権シリーズ vol.162

今年一月には千葉県野田市、六月には札幌市、そして八月末には鹿児島県出水市と、虐待によって幼い命が奪われる事件が相次いでいます。そんな中、東京地裁は九月十七日、昨年三月の東京都目黒区で当時五歳だった女兒が虐待を受けて死亡した事件で保護責任者遺棄致死などの罪に問われた両親に対して、母親に懲役八年の判決(母親は控訴)を下しました。さらに十月十五日には、父親に対して、懲役十三年(求刑・十八年)の判決を言い渡しました。

### ■昨年度の児童虐待相談件数は過去最多

厚生労働省は、全国の児童相談所で昨年度中に対応した児童虐待相談件数(速報値)が十五万九千八百五十件であり、過去最多であったことを明らかにしました。大分県内の児童虐待相談件数も千七百三十五件に上っており、前年度より約二百六十件増加しています。県の内訳は、▽心理的虐待五百二十件▽身体的虐待二百六十四件▽ネグレクト百六十六件▽性的虐待十二件。心理的虐待では、子どもが家庭内暴力を目撃する「面前DV」が目立つとのこと。

### ■「虐待」の「つなぐ」の通じかた

痛ましい事件のたびに聞かれるのが、

「しつけのためだった」という言葉です。確かに「どこまでがしつけで、どこからが虐待なのか」その線引きは曖昧です。今年六月に改正された「児童虐待防止法」では、親などの親権者がしつけにあたって子どもに体罰を加えることを禁止しました。

保護者が子どものためだ、しつけだと考えていても、あくまで子どもの側に立つて判断しなければならぬのです。子どもの心や体の発達が阻害されるおそれがあれば、それは全て虐待にあたります。子どもの権利が最優先なのです。

### ■毎年十一月は児童虐待防止推進月間です！

厚生労働省は毎年十一月を児童虐待防止推進月間と定めています。この機会に、家庭や学校、地域社会全体で児童虐待問題に対する関心と理解を深めたいものです。ある研修会で、児童虐待の状況は分かったが、虐待をなくす方法があれば…と問われました。しかし、その明確な答えを出すことはできていません。児童虐待の要因と考えられることが実に多様で、広範にわたるからです。

厚生労働省は、「子ども虐待対応の手引き」で、「虐待では、①多くの親は子ども時

代に大人から愛情を受けていなかったこと②生活にストレス(経済不安、夫婦不和、育児不安)が積み重なって危機的状況にあること③社会的に孤立化し援助者がいないこと④親にとって意に沿わない子(望まぬ妊娠・愛着形成阻害・育てにくい子)であること」の4つの要素を挙げ、虐待を防止する方法として、この4要素が揃わないよう働きかけることが効果的としています。

児童虐待は、親や子育てに関わる大人が原因で発生します。虐待を防止するためには子育てをする大人への支援が必要となります。

孤立化が進む現代社会では、子育てをする親への援助者が必要です。出産前から親の子育て相談を受けられる行政の体制、子どもやその親などを地域で見守り、社会的孤立を無くすための地域社会の取組みが重要です。私たち大人は、「子育ては母親の責任」「子どもは親のもの」というような古い意識を改めなければなりません。

さらに、学校教育を通して、子ども自身への人権意識を高める教育、虐待はもちらんいじめなどから自分を守るための教育を進めていくことも必要です。

(文責・社会教育課 田中)

## 市長室から

### 市長日記

102

#### 「茹でガエルは世界を覆う」

国東市長 三河明史



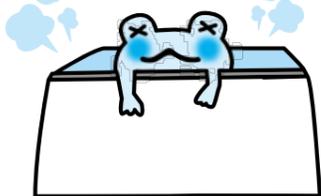
テレビのニュース報道は、衝撃的でした。「人々は困窮し、死に瀕し、生態系は壊れる。私達は、絶滅を前にしているのに、あなたがたは、お金と、永続的経済成長というおとぎ話を語っている…」国連本部の総会ホールで、国連気候行動サミットに参加したスウェーデンの16歳、グレタ・トゥーンベリさんは、ホールを埋めた各国の首脳や閣僚に厳しい言葉を浴びせ続けた。(「毎日新聞」2019・9・25朝刊)

そして、会場の政治家をにらみつけながら「空っぽの言葉で、私の夢と子ども時代をうばいさつた」と具体的な温暖化対策を実施することを迫りました。これに対し、「精神に異常を来している」とか「学校に行つて勉強しろ」などの批判が起きたそうです。そして、パリ協定を脱退したアメリカのトランプ大統領は、演説の内容を伝えるツイートを返信する形で「明るく、素晴らしい未来を楽しみにしている、とても幸せそうな女の子みたいだ。見られて良かった」とちやかすような投稿をした(「朝日新聞」2019・9・25朝刊)そうです。

ビジネスの現場などで良く使われる、「茹でガエル」と言う言葉があります。生きていく力エールを熱湯の中に放り入れると、あまりの熱さに飛び出るそうですが、まだ水の状態からお湯を沸かしていくと、少しずつ熱くなっていくことに気がつかず、とうとうそのまま茹だって死んでしまうそうです。この環境の変化に気がつかず、ついには手遅れになってしまうことを例えて「茹でガエル」というのです。「今、まさに地球はそのような状況にある、今のうちに対策をとって」と真剣に訴えているグレタさん達を馬鹿にしたり、子ども扱いしたりして笑っている政治家や大人達は、まさに、茹だって死にかけてガマガエルでありましょう。

この「茹でガエル」は、日本だけでなく世界を覆ってきているのでしょうか。日本でも、ここ数年の夏の異常な暑さや考えられないような豪雨。大型化し強化化する台風など、私達の回りでも気候が確実に変わってきていることは皆さん感じているはずですよ。

今の地球の状況は、グレタさんの「絶滅を前にしているのに、空疎なおとぎ話ばかり…」という演説の通りではないでしょうか。



## 市政バス12月コースに参加しませんか?

市民の皆さんに、市政や当市を支える産業に対する理解を深めていただくため、市の施設や市内企業・事業所等を見学する市政バスを次のとおり運行します。

### 12月コース 12月13日(金)

9:00 安岐支所(発) → 9:15 武蔵支所(発) → 9:30 アストくにさき(発) → こねぎトレーニングファーム → 道の駅くにみ → くにみ農産加工 → いっちゃんばち(昼食) → 消防本部 → 大分県漁業公社 → 14:40 アストくにさき(着) → 14:50 武蔵支所(着) → 15:00 安岐支所(着) ※コースは変更する場合があります

参加対象 市内に在住されている方 参加料 無料(ただし、昼食代は実費)

定員 18名(申し込み先着順ですが、初めて参加される方を優先)

申し込み方法 広報室へお電話(0978-72-5008)もしくは電子メール(kouhou@city.kunisaki.lg.jp)にて①住所②氏名③年齢④電話番号(日中連絡の取れるもの)⑤乗車場所を記載してお申し込みください

締め切り 11月20日(水)

その他 歩きやすい履物、防寒対策をしてご参加ください



「市政バス10月コースに参加しました」